

市議会だより



地場産の野菜や山菜と一緒に
元気も提供する
「むらっこ物産館」

主な内容

2月定例議会	2 ~ 3 P
一般質問	4 ~ 12 P
常任委員会だより	13 ~ 15 P
総務常任委員会 政務調査	16 P
控え室風景	17 P
編集後記	18 P

2月定例議会

平成19年度 仙北市一般会計予算の一部修正動議を 否決し原案を賛成多数で可決成立す

一般会計当初予算は180億8,800万円 19年度の全会計予算(各会計の重複を除く)純計は333億9,460万円

仙北市議会二月定例議会が二月二十六日から三月二十二日まで、二十四日間の会期で開催された。一般質問には十氏が通告順に登壇、当局側と活発な議論を交わした。

二月定例議会への市長提出議案は、平成十九年度仙北市一般会計予算並びに各特別会計・企業会計予算、条例制定や一部改正案、平成十八年度一般・特別会計補正予算など四十九件。

平成十九年度予算の審査は所管の各常任委員会に付託。各常任委員会では慎重かつ白熱議論の審査が行われた。

二十二日の最終本会議では各常任委員長から詳しく審査内容が報告され、採決では全議案を原案通り可決、同意し(四議案は賛成多数で)閉会した。

平成19年度仙北市会計別予算表

(単位：千円)

会計名	19年度予算額(千円)	前年当初比較(千円)	伸び率(%)
一般会計	18,088,000	300,000	1.6
集中管理特別会計	5,029,900	55,600	1.1
下水道事業特別会計	974,700	86,500	8.2
集落排水事業特別会計	625,500	32,500	5.5
浄化槽事業特別会計	129,000	13,000	11.2
国民健康保健特別会計(事業勘定)	3,791,600	472,800	14.2
国民健康保険特別会計(田沢診療施設勘定)	35,500	3,800	12.0
国民健康保健特別会計(神代診療施設勘定)	96,600	9,500	9.0
老人保健医療特別会計	3,863,604	177,089	4.4
介護保険特別会計	928,500	16,000	1.7
生保内財産区特別会計	67,300	2,900	4.1
田沢財産区特別会計	28,500	1,600	5.9
雲沢財産区特別会計	2,670	132	5.2
簡易水道事業特別会計	248,300	91,300	58.2
病院事業会計	5,490,491	62	0.0
温泉事業会計	46,703	11,761	33.7
水道事業会計	835,029	203,904	32.3
合計	40,281,897	183,146	0.5

市長提出議案の平成十九年度一般会計予算に対し、青柳宗五郎他三議員が一部修正の動議を提出した。

動議内容は「一般会計予算の中の市直営の市民浴場『東風の湯』を(株)アロマ田沢湖に委託するとして予算化されている市民浴場委託費千二百二十七万円を減額し、同額を予備費に繰り入れる。

この委託費は平成十七年度の赤字分丸ごとであり、委託するにあたっては赤字幅が縮小される減額があつてしかるべきである事から提案した。」

議員から提案者への質疑の後、起立による採決を行い、賛成五、反対十七で修正動議は否決された。

平成十九年度一般会計予算に対し一部修正の動議が提出され、採決の結果、五対十七で否決となる



市民浴場「東風の湯」の指定管理者に(株)アロマ田沢湖

賛成13 反対9 で指定に同意す

公の施設の指定管理者の指定について

「指定管理は時期尚早。直営の中で利用者を増やす方策を検討すべきだ。」など反対意見が相次ぎ、四名がこの案への反対討論を行った。

賛成討論は通告者なし。(反対・賛成どちらの討論も事前通告が必要)

この議案も採決は起立によって行われ、賛成十三、反対九(定数二十四、欠席一、議長除く)で可決となった。

反対討論 この議案は市民浴場「東風の湯」の指定管理者に(株)アロマ田沢湖を指定する案で、収支の赤字分を補填する事が

明らか事実である。アロマ側はまだこの東風の湯受託の事業計画が組まれていない。市と第三セクターお互いのなれあいになるケースと思われる。

反対討論

決して民間委託という事に反対というものではないが、ア

ロマ田沢湖の経営実態は資本金四千万円に対し累積欠損金約三千八百万円、アロマ自体が健全な形での経営が出来るよう、まずは努力すべきもの。指定管理者の応募がこのアロマの一件だけという中ででの決定は好ましくない。

秋田県後期高齢者医療広域連合の議員選挙で佐藤峯夫議長が当選

秋田県後期高齢者医療広域連合の議会議員の選挙が行われた。広域連合議会は県内の市長、町村長、市議会議員、町村議会より各六名ずつの二十四名で構成される。

市議会議員の定数六に対し七名が立候補し、市町村議会全議員の投票による選挙が行われた。当議会佐藤議長は開票の結果、当選が決まった。

市議会議員(定数六)の選挙結果

1	98票	当	北秋田市議会議員	吉岡 興
2	89票	当	秋田市議会議員	赤坂 晃一
3	87票	当	湯上市議会議員	藤原 幸
4	85票	当	秋田市議会議員	加賀屋 千鶴子
5	78票	当	仙北市議会議員	佐藤 峯夫
6	73票	当	大仙市議会議員	橋本 五郎
7	59票	落	にかほ市議会議員	竹内 睦夫

一般質問



望ましい教育について

学校統合と通学区域について

安藤 武

学校建築のあり方について

質問 学校建築は財産の取
得であり、学校の設置、
予算に関することを教育長に
答弁させてきたことは間違い
だと思つた。

角館統合小学校の建設責任
者はだれなのか。監視機能が
働いているのか。

市長 現在教育委員会で進
めているが、市長部局
に建設のための機構を置いて
やる方法もある。

角館では教育委員会で行つ
て来た経緯が多い。しかしこ
の後、神代小学校を初め引き
続き建築が予想されるので早
い段階で教育委員会と相談し
て進めたい。

質問 市長が地元業者の落
札で描いた構図と現時
点をどのようにとらえている
のか。

市長 下請、孫請を含め出
来る限り地元業者の採
用を申し入れしているが、競
争して仕事がとれるような技
術力、対応力のアップを願っ
ている。

施設整備の方向性について

質問 二つの地域から要望
されている統合体育館、
西木地区の野球場、田沢湖史

料館、秋田市にある育英寮田
沢湖会館は今後どう対応する
のか。

教員 統合体育館のあり方
としては場所、規模、
内容を検討しなければならな
い。西木地区の統合グラウン
ドについては新市で改めて検
討を要する。今回検討のため
の予算を計上している。田沢
湖郷土史料館はご不便をかけ
ているが瀉分校の利用を含め
て考えていきたい。秋田市千
秋公園にある田沢湖会館は、
昨年佐竹事務所と用地更新の
ため五十数万円を計上したと
ころであるが、現在の建物の
状況は大変厳しい情勢である。

開設されてから五十年を超
える歴史があり、各界で活躍
されている人材育成に大きく
貢献された施設だが、秋田市
の委員から役目は終わったと言
う御指摘もあり十九年度に存
続、廃止の検討をする。

学校統合と通学区域

質問 地域から学校がなく
なることは、住民にと
つては重大なことである。教
育全体の構想が理解されたら
思っているのか。

教員 平成四年に西長野、
平成六年に中川、平成
八年に白岩小の改築と言う一

連の改築計画の延長上にこの
統合小学校があり、地域の方
にも理解されていると思う。

質問 今回、部活動のため
集団で就学指定校外の
学校を選んだことに対し、教
育委員会の手順と変更先の教
師の行った行為を教育長はど
こまで知り得ているのか。

教員 部活動と就学先の問
題は団体ではなく、個
人の申請であり、そのように
委員会に報告したが神代中学
校とすれば非常に耐えがたい
と思う。委員からも心配の意
見があったし、やはりその当
該校の校長が地域と協議して、

改善して行くことが基本であ
る。

教師の行った行為について
は、全国大会出場でのお土産
を子供達に配ったもので、大
変誤解を招く行為であったの
で校長、本人に直接指導した。

教員 特色をもった学校経
営を行っている最中、
五人が一度に変更されるのは、
小学校も中学校も大変辛い事
である。

今後の中学校生活にも関わ
ることであるため、関係者が
納得した上でやって頂きたい
と教育長にお願いした。



秋田市千秋公園内にある田沢湖会館
現在の寮生は3名(定員9名)

一般質問



これからの観光について 学校教育関連について

田口寿宜

海外からの観光客を増やして行くには

質問 総合計画で「テンミリオン計画」が打ち出された。県内外から観光客を集客するのも大切な事ではあるが、海外から、特に韓国、中国、台湾からの観光客を今以上に集客するのも、この計画に結びつく一つの要素であると考えます。国際教養大学の教育チームが国際観光について調査をし、色々な提案をしている。「田沢湖畔観光施設の活用」という事で、科学技術や文化などに関する国際的な会議の開催を提案していた。市民の中にも海外にパイプを持っている方がいる。国際教養大学の提言等を参考にしながら、産、学、官、市民が協力、連携し今まで以上に海外から観光客を増やして行くべきと考えますが市長の考えを伺う。

市長 私も同感である。「テンミリオン計画」の具体的な取り組み内容、進め方については、重点プロジェクトとして掲げて今スタートに付いたところであるので、何をどうするかについては、今ここで申し上げる状態にはなっていないが、当然国内の観

光客を増やすことと同時に、海外からのお客さんを増やすことにも力を入れていきたいと思う。ちなみに、外国からの取り組み客数は、宿泊客数で平成十六年で四千人台、十七年は七千人とかなり伸びている。

質問 JRが十九年度に北東北三県を大々的に売り込む「デスティネーションキャンペーン」という企画がある。北東北三県の重要観光地との交流と連携を深め、このキャンペーンを最大限活用し仙北市を今まで以上に売り込んで行くべきと考えますが市長の考えは。

市長 今年は、JR東日本二十周年、こまち開業秋田新幹線十周年になる。JRとしては、こういう事でデスティネーションキャンペーンを行うということで、仙北市としてもJRと連携を取りながらPR活動をしたり、今年にはスタンプラリーなど積極的に取り組んでいる。

今後の学校運営の予算はどうなっていくのか

質問 厳しい財政状況の中、色々な面に配慮しながら各小、中学校に予算配分されたと思うが、今後学校への

予算はどうなるのかという不安の声が多々聞かれる。二十年度以降の見通しについて伺う。また、予算編成の際、各学校の担当者からヒアリングを行っているか。

市長 予算が厳しいから教育予算を削るといふことのないようにしていきたいと思っている。

教員 各学校の事務担当及び管理職の方からのヒアリングをもとにしながら、それを実現できるように努力している。

質問 全国的にも大変問題になってきている給食費の滞納。十七年度決算を見ると、仙北市でも未収金があった。

学校給食法第六条に給食費は、保護者が負担すると明記されている。集金方法も様々であり、将来的に未収金の額が大きくなならないよう市として統一した方法を取るべきと考えます。口座引き落としも一つの方法と思う。現在の状況と今後の対策について伺う。

教員 十七年度には、小、中学校合わ

せて三十件程度の未納があった。十八年度は、二月まで約六十件ほどである。この一ヶ月の間にいくらか前進できるものと考えているが昨年度よりも厳しい状況にある。対策については、二月に市の収納対策本部ができたので、その力をかりながら進めて行きたい。全国的に差し押さえとか、給食ストップだとか厳しいことがある。

先行事例に学びながら今年度中に方向性を出したいと思っている。



楽しい給食時間

一般質問



仙北市行政改革大綱について 団塊世代の大量退職は人材の 損失か?! 本庁舎建設は?!

田口勝次

まずは旧三町村時代の
反省から

質問 仙北市の行財政改革にあたっては、まずは旧三町村時代の財政運営そのものを基本的に反省しなければならぬと考える。仙北市が示している「危機的状況に直面している」という認識は地域間、職員間そして議員間においても違いがあると思うが如何か。

市長 旧三町村の各々の業務の様々な要件を引き継いで合併し現在の仙北市がある。当然財政運営の厳しさも引き継いだ。それを解決するため行政改革大綱を定め、その他の総合計画の中で取り組もうとしている事で、当然反省があつてこういった項目が上がつて来ている。認識についても若干の温度差があつたのは確かであるが、行事や業務を一緒に取り組む事により「差」を解消しつつ現在取り組んでいる所である。

団塊世代の大量退職は
人材の損失か

質問 「大綱」の中に「団塊世代の大量退職は人材の損失」とあるが、この考え方は的確性を欠いている。大量採用による弊害があつ

たと考えるべきだ。

この大量退職を機会に思い切った組織改革、職員の自己変革を求めるべきと考えるがこの点は如何か。

市長 大量退職は団塊世代だけでなく、一十五年、二十六年退職、ここにもっと大きい山がある。定年退職をベースにする事なしでの人員計画は立てられない。退職に大きく頼りながら、業務の継続性を維持するために若干の採用をしようというのが人員適正化計画の本身。

市民のニーズは多様化しており業務が減るわけではない。財政の対応のためも含めてスリムな体制の中で、更に増える業務をいかにこなすかという事にチャレンジしていくというのがこの行政改革大綱である。

民間委託について

質問 民間で出来るものだが多様なニーズに対応するにも、行政のスリム化を図るにも、そうした体制は必要と思う。

市長 今後どんな分野・業務を民間に委ねていくのか。指定管理者制度を導入し、積極的に民間委

託を行っている所であるが、今後においては、例えば図書館とか、市民会館、又は体育施設や福祉施設、こういった様々な分野で、サービスを落とさずに、よりローコストでできないか。計画大綱の中で具体的な検討を進めていきたいと考えている。

プライマリーバランス
について

質問 財政運営にあたってはプライマリーバランスの維持が理想であり、既に国もその具現化を表明している。

仙北市は国と違い市税の大幅な増税は期待できない。行動計画に記している程度の施策ではアンバランスは是正できないと思うが。

市長 現在の仙北市では、その年の発行している借務料は返済している額より多い状況ではない。残債を少しづつ減らしている。決してアンバランスな状態ではない。

本庁舎建設について

質問 本庁舎建設に対する市長の発言にブレがあるように思う。基本とする考えを再度伺いたい。

合併協議時には十年間の合併特例債の適用範囲の後半にという事でしたが、これを出るだけ前倒ししたい。本庁舎方式の方向性、目処については私の任期中で出したいという考えは今も変わっていない。従つて平成十九年度予算に調査費を置かせて頂きました。この中で本庁舎方式時の組織機構のあり方、場所、新築か等を検討して行きたい。

プライマリーバランス

地方債などの借金を除いた歳入と過去の借金の元利払を除く歳出を比較する。歳出の方が多ければ赤字となり、将来の借金負担が経済規模に比べ増大することになる。黒字になれば、新たな借金は過去の借金返済に充てられるため、財政が健全であることを示す。



4月1日から(株)アロマ田沢湖に委託された市民浴場「東風の湯」

一般質問



生活路線バスと市民バス

命の根源「水」について

真崎 寿浩



普通列車の増発を要望している田沢湖線

交通体系について

質問 「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」の実現のためには、観光で訪れる人との「ふれあい」「交流」が実感できる環境づくりが必要である。

市長 生活バス路線の白岩線が廃止されるなど、ほかのバス路線も今後廃止が検討される要素はある。早急に観光との結びつきを強化すべきだ。

市長 羽後交通より十三路線のうち、白岩線が九

月で廃止とのことである。白岩線を利用されている住民の足を確保することを検討しているが、今のところデマンドバスと言う予約を受け付けて配車する方法を考えている。

他に廃止の話はないが、当然お客が減れば、次のところが出てくると思うが、仙北市として独自の方法を考えていきたい。抱返りとの関係では、わらび座との連帯を視野に入

れながら、観光のために別途に考えていきたい。

秋田内陸線の存続は、莫大な負担を求められることも予想されるが、市民の努力次第では達成できる。運営形態、利便性などの向上を計るべきだ。

市長 市民総参加の乗車促進運動を展開しているが、非常に厳しい判断を求められている。再生計画の目標値に達していないが、観光会社が呼び込んだ乗客は確実に増えている。観光的な要素の中で活路を見出し出したい。

市長 盛岡、秋田間に快速列車の運行など、観光路線として、また地域住民の足として、田沢湖線の運行の充実を働きかけるべきと思うがどうか。

市長 市としてJRに対して要望している事は、田沢湖線の普通列車の増発、新幹線の関係では田沢湖駅、角館駅に止まらない列車が二本ある。二本とも止まる事、自由席の設置などであるが、JRとしても今の利用の現状では難しいと判断している。地元の状況、事情を今後もJRに要望していきたい。

質問 住民が観光地でよかつたと言う認識が不足している中で、地域密着型の

イベントを行うことにより、地場産業との関わり方、観光資源を共有する認識が高まるのではないかと。

市長 昨年神代地区の皆さんが自主的に県の「きらめき事業」の補助金を受けて行ったが、今年は雪不足のためか出来なかつたのは残念である。今後共、地元で育てたイベントが定着することを期待すると共に、市としても相談にのりたい。

水道事業について

質問 井戸水にも異常気象の影響が出ている。また上流部に位置している仙北市としては、水質保全の観点からも下水道、浄化槽の設置などの必要性をもっと住民に認識させるべきだ。

市長 神代地区への給水は角館浄水場から引くことを考えている。角館地区も角館浄水場から引く未並及地もある。十九年度神代地区でのアンケート調査の結果を見て、具体的な順番が決まってくるものと思う。農業用水も心配されるところであるが、水質保全については同感である。

一般質問



仙北市総合計画重点プロジェクトについて

行政改革大綱行動計画(素案)について

佐藤直樹

テンミリオン計画

質問 この計画は企画力、営業力が重要だと思う。

それぞれの観光協会が連携し頑張っていると思うが、仙北市は四季折々の魅力があり、四季毎にコースを設定し、市全体をとらえたプロデュースをする必要があると思う。又、交流人口を増やす一つの方法としては文化的イベント、スポーツイベントは考えられないか。

市長 この計画を達成する為に、どういった所を狙い、どういう手段でということを含め、文化・スポーツイベント等も積極的に取り組んでいく。

質問 広い仙北市を効率良く観光する為には、道路の整備が必要と思う。一つは日三市角館線で、進捗率が上がらないように思う。用地問題等あると思うが、市が積極的に問題解決の為に動くべきである。次に広久内角館停車場線だが、ここは歩道工事を八百メートル残り数年間危険な状態のままである。この道路は通学路でもある。碎石プラント工場も二つあり、大型車の交通量が国道並である。

県にどう動きかけていくのか。

次に梅岡線だが、市の観光を考えれば重要な路線だと思う。そして十九年度に全線開通する奥羽山麓農道だが、危険箇所もあり冬期通行はできないと聞く。冬季観光の充実の為に、この道路の冬期通行は大変重要になると思うが市長の考えを伺う。

市長 日三市角館線は、今後も計画的に進めて行く。広久内角館停車場線の歩道は、市内の他の路線整備と合わせながら進めて行く。梅岡線の県道編入は、可能性について検討し担当課を中心に進めて行く。奥羽山麓農道は、冬期閉鎖のない方向で働きかけをする。



歩道工事が急がれる
広久内停車場

産業連携プロジェクト

アンテナショップについてであるが、これまで調査した物件等を認定農業者や集落営農組合に情報公開する事はできないか。又、有楽町にある秋田ふるさと館が移転し、運営方法も変わるという話を聞く。市として積極的に調査し、ここに売り込む方策を考えるべきと思うがどうか。

市長 スピーディーに物事を運びその効果を確かめながらベストの方法をとって行く。ふるさと館については、県が新しくトライしようとしている事に市の考えを申し上げ、一緒に進めて行けるようにしたい。

行政改革大綱について

質問 合併効果を早く出す為にはスピードと市長のリーダーシップが重要だと思う。合併は行政コストをいかに削減し一般財源を確保するか、行政自らが努力と工夫をして行くのかでその効果が大きく違ってくると思う。庁舎問題であるが検討だけで二年かけるのか。やはり、十九年度中に何らかの結論を出すべきと思うがどうか。

できるだけ早くということについては、常に留意しながら進めて行きたい。

第三セクターについて

質問 十九年度中は連絡協議会の中で経営連携を実施し、経営統合等の可能性についても検討するところがあるが、最終的には売却から譲渡まで考えるべきと思うがどうか。

市長 民間に売却するといふ事も含め、今後のあり方は検討して行かなければいけない。

市立病院の経営健全化について

質問 広い仙北市の市民医療には、二つの病院が必要だと思う。医師確保、角館総合病院の老朽化、組合病院がどこにどうなるのかなど、この厳しい中で地域医療会議では経営健全化に向けてどういった検討をしているのか。

市長 医師の確保、地域医療のあり方、二つの市立病院と診療所をどういう形で進めるのが良いかなど、今後も地域医療会議で議論していく。

一般質問



国の中小企業対策事業は発展のチャンス バイオマス事業に取り組み

藤原万正

中小企業対策は

質問 中小企業庁が目玉とする施策の一つが地域資源の掘り起こしである。

十九年度から中小企業地域資源プログラムを創設し五年間で千件の新事業創設を目指すと聞いている。この点について当局の見解をお伺いしたい。

市長 この件については詳細を把握していない面もあるのですが、内容がわかり次第検討を加え市内の企業よびかける。またこの事業とは別であるが、小規模事業者新事業全国展開支援事業を商工会が国に採択され実施しているのですが市でも一緒に支援している。

団塊の世代を仙北市に

質問 都市から農村に人を呼び戻す事業がある。

農村への定住者を平成二十八年までの十年間で百五十万人増、二地域居住者（都市と農村両方に住居を持つ者）を三百万人増にする事業だが地域活性化の起爆剤になるや否や見解と対応をお聞きしたい。

市長 市民農園や農産物加工施設等の施設整備を行いながら団塊の世代などに我々の地域に目を向けてもら

えるような定住環境整備に努めていきたい。

有機農業の取り組みは

質問 有機農業推進法が成立した。消費者が割高

な農産物を選ぶか疑問はあるが、環境への付加の軽減にも意味はあると思う。当市の取り組みは。

市長 国全体では有機農業への取り組みはまだまだ低いですが当市では畜産農家の堆肥、厩肥等ほとんど活用されている。

今後は環境負荷低減（エコフアーマー等）に向けた計画策定実施について対応したい。

今注目のバイオマス産業

質問 地球温暖化への対策が急がれている。わが

国は京都議定書の目標達成計画に基づき二〇一〇年まで自動車燃料のうち年間五十万キロリッターをバイオ燃料と置き換えるとしているが、全面積の内八十%が森林面積である当仙北市はバイオマスを利用し産業として取り組むべきと思うが見解は。

市長 バイオマス発電、バイオマス活用について検討中である。まもなく報告書ができるが真剣に取り組む

たい。

注：バイオマス：植物をエネルギー資源と見て石炭、石油化した部分を除いた未利用エネルギー資源の事をいう。

現在建築廃材やサトウキビなどからとれるバイオエタノールが自動車燃料の代替品として製造され、商業化寸前である。

防災体制は大丈夫か

質問 防災関係について伺いたい。過去の地震の際

秋田県は市町村の対策の遅れで危機管理にゆゆしき問題があったと聞いている。当市の体制はどうか。

市長 消防庁は消防団員の「目指せ百万人」を掲げ、消防団員入団促進キャンペーンをスタートさせた。当市の実態と取り組みは。

市長 対策本部等組織についてでは昨年の豪雪に対応した組織が既にできている。防災計画の危機管理は若干遅れているが三月末までには素案を仕上げ、県と協議予定である。

又災害備蓄については仙北市全体で七百三十人分であり、毛布、タオル、水バック、非常用ろうそく、土のう、テントなどが準備済である。

消防団員の平均年齢は十四四・七歳、充足率八十四・六%である。高齢化が全国以上の地域なので補充がむずかしい。団員確保の活動はしながらも自主防災会等と連携をとりながら補完する方法を考えていきたい。

国の新少子化対策当市は

質問 生後四ヶ月の赤ちゃん訪問事業がスタート

するが当市での取り組みは。

市長 国の新制度であり、内容把握に努め対応が遅れないようにする。

現在の関連事業は生後一ヶ月内の訪問、四ヶ月内の乳児検診、三ヶ月経過後の予防接種を実施している。



仙北市地域エネルギービジョン策定委員会の研修

一般質問



市公共事業発注における諸課題について

高すぎる国保税の対策について

浅利則夫

公共事業の諸課題

質問 仙北市も行政改革大綱において、入札制度等の改善ということで一般競争入札の導入がうたわれている、具体的に仙北市はどのように推進していくのか。

市長 一般競争入札と言っても地域の事情を配慮しながら地元業者の育成も視野に入れ、地域限定の一般競争入札も出てきている。市としても県、国、また県内の動きを見ながら向かっていきたいと思う。

質問 工事発注に関して市では、入札資格、予定価格の公表をしているが指名された業者にしか公表していないようである。市民や議会に公開、公表し、競争原理が働いているのか、談合があったのか、なかったのか、こうしたことはチェックのための公開でなければ意味を持たないのでは。

市長 予定価格の公表については、公平な透明性のある入札ということのために行ってきた制度である。その事業の内容等のみで入札に応じていただいたものを予定価格を公表することで、最前

格公表である。

質問 県も仙北市も今後公共事業の激減が予想される。県の方ではそうした業者の異業種への転換、あるいは別の業種も含めた多角経営への転換も打ち出し指導を始めたと聞いている。

市長 県だけでなく市と県が一体となつて取り組まなければ、今働いている労働者が路頭に迷うことになりかねない。仙北市の対応は。

市長 工事の激減に伴って、事業者または従事者への配慮、生活を守るための手だて、限られた事業量の中で事業を続けていくためには、多角経営であるとか業種の変更、こういったことが当然必要になつてくると思う。国、県の制度も活用しながら、資格の取得、研修の受講等をしてまいりたいと思う。

国保事業

質問 平成十七年度の決算税徴収額の半分にもなるとしている滞納総額、高過ぎる国保税の実態がここにあらわれていると思う。高過ぎて払えない世帯がふえている、この実態を市はどうとらえているのか。



最後の指名競争入札か?(角館小学校)

市長 当該年度に想定される医療費に対して、国及び県の支出金、一般会計からの繰入金、これらを差し引いた額は健康保険加入者の負担として保険税ということになると思う。市としては医療費の抑制という考えの中で、早期発見のための健診や人間ドックにも力を入れて医療費の抑制を図りたいと思う。

質問 国保税滞納者に対して、短期証明書や資格証明書を発行しているが、しっかりとした基準に沿って発行を行っているのか、その基準についてお伺いしたい。

市長 滞納してもやむを得ない特別な事情、こういったものが一つの判断基準になるが、一年間保険税を滞

納している世帯主に対して行うこととして取り扱っている。

是正指導への対応

質問 公社より派遣を受けていた職員の待遇を現状維持、あるいは形態を変えても年収は確保させる雇用でなければならぬ。何の落ち度もない派遣されていた職員に是正のツケを回すことはあつてはならないと思う。

市長 市の基準に従つた臨時、パートの雇用で統一化されなければいけないと思う。今まで西木公社から支給されていた給与については補償する、しかし手当はないという事で提案し、自分で判断をして決めていただいた。

一般質問



田沢湖病院救急指定再開はいつごろの見通しなのか。

地域バランスを考えた施設整備について

田口喜義

質問 市立田沢湖病院の一
日も早い救急指定再開
を市民が望んでいる。

救急指定の再開はいつごろ
の見通しなのか、又医師確保
対策室の進行状況について。

市長 残念ながら田沢湖病
院は常勤医2名の体制
では、救急病院再開は無理で
あることと、その見通しは立
ってはいない、医師確保につ
いては、県内外の大学、ある
いは病院、そして県のアドバ
イスを受けながら確保に努め
ている。

しかし現在医師の状況は他
の自治体病院も含め医師不足
が顕著になっており難しい状
況にあるが、医師確保対策室、
そして病院と連携しながら引
き続き確保に向けて頑張ら
ない。

しかしこの様な中であって
も地域医療サービスを確保し、
合わせて病院の経営の健全化
も図るといふ観点から、医療
改革会議を設置し、今後の地
域医療サービス確保と二つの
公立病院がどのように連携し
て行くのか、その為の経営形
態等も含め本質的な話から、
緊急の医師確保の問題などに
対応するため、今年、前半ま
でに病院のあり方について、
基本的な方向付けのため会議

を進めて参る。

質問 救急再開の目処が立
たない中であって、今
後市民や観光客に安全、安心
の医療サービスの提供方法と
して、医師の確保や病院経営
なども視野に入れた場合外部
委託、その他の考え方はある
のか。

市長 田沢湖病院の医師不
足の中で皆さんに不便、
不安を与えていることは早く
解決しなければと考えている。
外部委託、その他の考え方
については、医療改革会議の
中で十分議論し、それに政策
的な考えを入れて最終決断を
するべきと考えている。

質問 玉川温泉や乳頭、高
原地区への、救急車の
出勤回数も多い事から、田沢
地区あるいは高野地区へ、新
たに救急車の配備は出来ない
か。

市長 仙北市の救急体制に
ついては従来と変わら
ない訳であるが、高規格の救
急車については、救命士の育
成、経験者の採用等も含め早
急に体制を進めたいし、確認
を得ている所である。

質問 仙北市の施設の整備
において、地域のバラ
ンスが重要である事から、合
併協議時に各町村から出され

た事業計画において、同様の
施設が重複しているものにつ
いて、どのようなコンセプト
で進めるのか。
特に老朽化の激しい生保内
市民体育館の改築は、
市長 生保内市民体育館は
老朽化が著しく、補修
でもう限界に来ており、立て
替える必要性が出て来ている。
施設の事業化に当たっては、



老朽化が著しく、改築がまたれる生保内市民会館

事業の必要性、効果又財源の
裏づけ、その規模、そして地
域バランスなど重複しないよ
うに、無駄のないように配備
していきたい。
又場合によっては、合併前
の計画であっても、代替案が
ある中において実施に至らな
い物もあり得る。

一般質問



合併効果について 市民の税負担について 地域農業について

高久昭二

合併効果について

質問 仙北市は合併して二年目の年を迎えようとしている。

旧三ヶ町村の異なる行政運営、歴史的な風土、環境等の中で合併したが、困難な財政事情も重なり多くの問題や諸課題を抱えている。

合併の最大目標とされる北東北の観光拠点都市構想は予想通りに進んでいないのが現状と考える。

市長は現時点で、合併効果をどのように評価し、今後その効果を発揮していくのか。

市長 合併しただけで物事が変わるとは考えていない。

合併がスタートであり、その効果を出すのはこれからであると考えている。

市民の税負担について

質問 市民税、国保税などの法定減免のほかに、申請減免制度の実施に向け、申請用紙を、三庁舎窓口で常備できないか。

市長 早速どの庁舎でも手続き用紙が手にはいるようにする。

質問 国保税滞納者に対する保険証取り上げを新年度から中止すべきではない

か。母子家庭や乳幼児家庭に対する資格証明書の発行件数はいくらか。

市長 滞納の事情がある方については、話し合いにより適正な相談に応じられると思う。

資格証明書の発行は、母子、父子各一件である。

質問 県が推し進めようとしている子育て教育税について市長の考えはどうか。

市長 全体を理解する説明が伝わってこない。反対ということではないが、必要性について十分理解したうえで仙北市としてどうするか考えたい。

地域農業について

質問 国が進める品目横断的経営安定対策による集落営農組織の立ち上げは中山間地と小規模農家が多い仙北市には適さないのではないか。コスト削減以上の米価の下落、規模拡大にも限界があるように援助していくのか。

市長 国の大きな制度やそ度を活用し、今後の農家としてやっていけるような努力を今からやっていただきたい。現時点で赤字を想定した対策は考えていない。

地産地消について

質問 地元農業生産団体等広がりを見せている。こうした地産地消施策の取り組みが市の農業振興、地域農家支援も含め、今後ますます重要になってくると考える。

市としても、先進地を視察し情報収集する中で農業加工食品の商品化、事業化に向け検討する時期ではないか。さらに、地産地消宣言を市が制定し、県内外にアピールする考えはないか。

市長 先進事例はたくさんあると思う。市にふさわしい地産地消のあり方の参考にしていきたい。

宣伝、アピールについては、その方法により生産者の方、地域の方、外部から見るときはつきり分かるよう検討し、必要があればそうした手法に進んでいく。

西木村総合公社職員の雇用確保について

質問 西木村総合公社の運営について秋田労働局からは正勧告を受け、新年度から派遣業務を取りやめ、希望者は市の非常勤職員として

雇用されるようだが、西木地区小中学校公務員の方々にについては現業正職員として再雇用すべきではないか。

他の方々も実質的に不利益処分を受けることになる。現在市が定めている臨時職員並びにパート職員の勤務条件及び服務に関する要項を一部見直し、一時金、通勤手当の支給は出来ないか。

市長 仙北市として外部から派遣され仕事をしていた人を今の時点で正職員として即雇用し職員を増やすことは議会から今まで指摘されていたことにも反することにもなると思う。別の立場で正規にハローワークを通して臨時、パートとして採用されている職員の人たちとの条件面での公平性からも踏み込めないと思っている。



地元産の野菜、山菜が好評な直売所

常任委員会だより



総務常任委員会に付託された案件は条例五件、当初予算五件、補正予算四件、その他五件、陳情六件である。

平成十九年度仙北市一般会計予算について

【歳入】

問 法人税が前年度より減となっているがその根拠は。又、どのような業種に多く見られるのか。

答 法人数は十八年度五百八十三法人、十九年度五百三十四法人で、四十九法人の減少を見込んでいます。業種は飲食業をはじめ、様々な分野に及んでいます。

問 アロマ田沢湖への貸付で、今年から五百万円の返還が始まるということで予算に計上されている。契約にあるから予算編成上は予算計上せざるを得ないことの考

え方と、健全財政を貫くとする基本にたつての予算編成があるとするば何らかの対応策、初期策を起さなければならぬと思われるがその考え方は。

答 償還の計画に基づいて償還してもらう事が市としての基本である。現実的にはアロマの経営状況で可能かどうかの判断も前提としては必要な事と思う。歳入欠陥にならないよう経営の健全化、事業の効率的執行に取り組み、平成十九年度中に償還して頂く事を前提で歳入に計上した。

【歳出】

問 定住対策プロジェクトで、空き家調査をし定住させる事についての考え方は。

答 十八年度は基礎調査を行ってきたが、今後は上松木内地区、白岩地区を含め、いきたい。田沢地区として一定の成果があれば市内全域に情報提供を呼びかけたい。最初は短期間の利用でこちらに親しんでいただいて、永住してもらえればと思っています。

意見 若者を対象とした考え方も必要ではないか。

問 自治体として微税する義務と、納税者は納税する義務があるが、これを納税貯蓄組合に依存する事を将来何年も続けて行く事で良いのか。

答 あくまでも納税者が自主的な納税にあたり、自らが組合を組んで貯蓄し、それにより自らが納税しやすい環境をつくるのが趣旨と考えている。強制はしないが、自主的な納税をする為に必要と考えているので、できるなら続けてお願いしたい。

平成十八年度仙北市一般会計補正予算(第八号)について

【訴訟関係】

問 訴訟関係で、前任者に係る責任を問う事ができるのか弁護士に聞くよう強くお願いしたがどのようなになったのか。

答 結論から言うとな法的には求償請求はできないという事であった。

【弁護士】

問 弁護士の意向を尊重して仙北市として結論を出すのは正しいのか。この判断は判例に基づいての判断か、弁護士の法律家としての判断か確認する必要があるのではないか。民訴法に基づき理論を振りかざして仙北

市が百パーセント応じる事は市民に対し迷惑を掛ける事になる。

答 弁護士の回答内容を解釈した事で法的にどうかという議論と法的にはどうかという話もあると思うので、当然考えた上で最終的な結論を出さなければならぬと思っ

付託案件の採決

条例五件、当初予算五件、補正予算四件、その他五件については、原案を可と決定した。陳情六件については継続審査とした。



東風の湯の指定管理者となった(株)アロマ田沢湖

教育民生



常任委員会

一般会計予算

問 老朽化が目立つ寿楽荘について、西長野小学校を改修するなど対応できないものか。

答 今後、改修するにしても、直営か委託か、規模はどれぐらいになるのか等、施設整備計画の中で検討しなければならぬと考えている。

問 東風の湯の委託料一千二百万円について、現在の収支の差額が委託料というものは、おかしいのではないか。

答 算定にあたっては、過去数年間、一般財源から支出していた基準となるこの額が一千二百万円であることから計上した。

問 西木総合公社に派遣を委託していた学校校務員、給食センター調理員の対応について四月一日からどうなっているのか。

答 全員に条件を提示しそれで良ければ、優先的に雇用すると説明したところ、引き続き雇用してほしいとの要望があった。事情により校務員五名中一名については、公社に残ったが、調理員七名を含め全員再雇用したいと考えている。

問 統合小学校の通学手段について、形が見えない、父兄にも詳しい説明がされていないが、どのように考えているのか。

答 西長野小学校区については、遠距離通学対象になる。東小学校区については、遠距離通学の対象とはならないが、今までの通学が倍の距離で途中危険なところもある。スマイルバス、デマンド方式等市当局と検討していきたい。

問 生徒の指定校変更について、教育委員会へは教育長の報告だけで終わっているが、今回の場合六人という人数なので、事務委任規則第二条にある重要かつ異例の事態であり委員会へ回るべきでなかったのか。

答 今回は六人だが、個々が集まったと判断している。◎今後こういう問題の場合、教育委員会協議案件として

慎重に協議する事も強く要望した。

国民健康保健特別会計予算

問 試算の段階であるが、このままで行けば5%以上の増税になるのではないか。

答 一人当たりの医療費が毎年伸びている。繰越も見込んでいますが、医療費の伸びも大きいので、どうしても税としていただくのが多くなる。新年度の所得、固定資産、繰越金の確定により税率は変わると考えている。

介護保険特別会計予算

問 にしき園に現在西木総合公社から派遣されている六名の賃金体系等はどうなっているのか。

答 今の基本給は保障し、ボーナス、通勤手当がないという条件で、希望を募ったところ、一名を除き雇用の希望があった。将来は同じ雇用条件に是正するよう市長部局、総務部で検討していきたい。

一般会計補正予算

問 旧角館保育園の改修について、児童館が必要なのは理解できるが、学童保育の場としてはふさわしいとは思えない。

思えない。

答 対象を松木内川の東側の児童で五十人ぐらいが利用するものと考えている。家庭により迎えに来る時間が違うので、渋滞は起きないと予想している。予算議決後、すぐに説明会を行ったと考えている。

問 神代小学校建設事業について、合併補助金の前倒しで事業が進むのはいいが、全体計画について議会に示されていないのに係わらず、今回の予算計上は、進め方に問題があるのではないか。

答 全体計画については、新年度に入ったら詳しく説明し理解をいたしていきたいと思う。進め方については問題があったと反省している。

◎市立生保内体育館の、耐震診断、耐力度調査の早期実行と市内学校全体の維持管理の状態を早急に調査検討するようにと要望が出された。

公の施設の指定管理者の指定について

問 指定管理者選定委員会株式会社アロマが妥当であるとのことだが、選定の根拠が見えない。経営状況や事業計画等も含めて審査したのか。また公衆浴場を運営するノウハウはあるのか。

答 選定委員会で審査項目ごとに評価して協議の結果、適当であると判断した。また民間のノウハウを活かし、PR活動やJRとの提携など、幅広く効果的な利用が出来るかと考えている。



来年度児童館として活用される旧角館保育園

産業建設 常任委員会

本会議から当常任委員会に付託された案件は、議案二十一件、陳情六件である。

浄化槽整備事業予算

問 市設置型浄化槽の使用料が、角館地区と西木地区で違いがあるが今後どうするのか。

答 急に料金を一本化するとは難しく、今後五年間で徐々に同じくしていく。

労働費予算

問 雇用対策は、重点プロジェクトにある地元定着を図るための大事な施策である。特に、高校生等の就職状況はどうなっているのか。

答 雇用対策は定住ともつながる問題であり、雇用の場の掘り起こしも行政として考えていく。行政が雇用の場を作り出すことは難しいが、民間雇用の場を情報収集し地元雇用を呼びかけていく。角館高校、角館南高校の就職希望者は100%達成している。

商工費予算

問 行政の企業誘致の対応が見えてこない。

答 取り組みに対する、人的予算的等の課題に対応できる対策が出来ていないのではないかと。外部の企業誘致セミナー等で仙北市のPRをしているが、現実にはまだ見えてこない。

問 今後もPR活動の継続と職員を派遣し、情報収集しながら取り組んでいく。

答 合併し、観光の振興を図り他産業との連携を強化することが市の発展に重要な課題であり、そのためには観光協会の統合が必要と考える。

問 統合できないのはなぜか。統合について否定も反対もしているつもりはない。

答 統合へ向けての話し合いを今後も進めていく。地域の今まで築き上げてきた観光資源の特徴を活かした活動については、既存

の観光協会が中心になって、がんばっていただくことが基本的な考えである。

問 十九年度の土木建設予算の実質発注工事金額はいくらか。十八年度と比較した場合はどうか。

答 五億五千三百三十九万円の予算であり、十八年度比較で若干の減である。

問 都市計画道路横町線の完成が二十一年まで延びた原因は何か。

答 地権者との折り合いがつかず、電線の地下埋設で電力会社と協議が出来ていない。

問 古城山公園の賃貸借契約の経緯と賃貸借料の積算根拠、公園の現状、今後の考えは。

答 契約は昭和五十年から結ばれ、現在まで三回見直しが行われている。料金の設定はその都度協議の上決定されてきた。

問 公園に設置されていた遊具は現在はないが、公園広場として市民、観光客が利用している。

答 平成八年に角館町指定史跡になっており、ランドマーク的な要素も勘案し、今

後も市で管理していきたい。

集落排水事業特別会計予算

問 施設管理費の委託料の内訳は。

答 西木地区五箇所の処理場で発生する汚泥を移動脱水中で水分を抜き取りコンポスト化して農地に還元している。発生量は年間三十六トンである。

観光費補正予算

問 観光施設整備費とテニマリオン計画推進事業費内容は。

答 観光施設費は、たつこ姫、田沢湖、駒ヶ岳が望める場所にライブカメラを設置し、全国に発信するものである。推進事業費は英語版の観光ガイドマップ、市のパンフレット、観光用の仙北市を照会するDVD制作費である。

温泉事業補正予算

問 水沢温泉引湯管新設工事が減額された要因は何か。

答 材質的には当初設計の物と同等品で安価な管に変更し、再度、湯量計算をした結果一サイズ細くしても十分な湯量が確保できると判断した結果である。

委員会では次の意見を付し全会一致で原案を可とした。

意見書抜粋

三つの重点プロジェクトの第一に定住対策をあげている。雇用対策と企業誘致は若者の定住促進を図る上で、仙北市の緊急且つ重要課題である。現状では予算、組織体制、係と商工会、市民との連携、人的配慮等の対応が不十分であり、もう一度見直す必要がある。

古城山公園の賃貸借料について、本来の目的である公園としての整備を促進すると共に、賃貸借料の積算根拠を明確にすべきである。



ライブカメラでこのような映像が全国へ発信される

先 東京 荒川区
千葉県市川市

H19
1.23 ~ 25

一月二十三日、真冬とは思えない快晴の中、こまち八号（角館発八時四十五分）で一路東京へ出発した。今回の政務調査の目的は、仙北市が十九年度から計画している都内のアンテナショップの候補地の一つである荒川区の商店街の視察と、PFI事業（平成十一年九月施工「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」）の先進地である市川市の視察である。

荒川区「ふるさと物産館誘致事業」

一日目、予定より三十分ほど早く荒川区役所に到着したが、議会事務局に素早い対応をしていただいた。

鳥飼議長の歓迎の挨拶を受け、その後、高野産業部長、黒川課長から荒川区の現状、区の補助事業である「ふるさと物産館誘致事業」の説明をしていただいた。

質疑の中で西川太一郎区長が大変秋田に縁のある方で、お会いできる事になり、しばし秋田の話に盛り上がり、またその中で三嶋助役が秋田出身ということで、秋田弁で挨拶してくれた。二度ビック

りである。

荒川区は、人口十九万二千二百五十一人、八万八千九百九十九世帯（平成十八年十二月一日現在）四十語の商店街がある。今回の補助事業の内容は、十九年度からは

◎店舗改装費―補助率三分の二、限度額二百万円

◎店舗家賃―補助率三分の二、限度額、月二十万円最長二年間

◎PR経費―補助率三分の二、限度額二十万円

という内容である。私達は二つの商店街を視察

した。

どちらもアーケードがあるわけでもなく、昔ながらの下町の商店街という感じで道幅は狭く人ごみの中、自転車は走るのが大変そうである。空店舗のほとんどが間口二間、奥行き二間ほどであった。十九年度からは、区ではなくそれぞれに商店街が空き店舗を自ら運営する事になっている。商店街に貢献できる店、パツティングしない商品造りなどの条件がある。現在、十八年八月一日にオープンした新



荒川区長と供に

潟県上越市の「みなもと農場」が一号店として開店している。定休日で詳しい話が聞けなかったのが残念であった。

二日目は千葉県市川市のPFI事業の研修である。

麹町のホテルを朝八時三十分に出発、満員電車で揺られ九時四十分市庁舎到着、春日議会事務局長に市川市の概要を説明していただく。人口四十六万五千人、二十万八千世帯、江戸川を隔てて江戸川、葛飾区と相對している。南は浦安市と東京湾に面している。市の一般会計は千四百四十一億円、企業会計十七億円、特別会計八百六十一億円であった。

次に担当者よりPFI事業について説明を受けた。市川市のPFI事業の一番の特徴は、中学校校舎、給食室、公会堂、保育所、ケアハウス、デイサービスセンターを二つのPFI事業で一棟の合築した建物（五階）で整備したことである。一体的に整備したこととで事業費が大幅に縮減（VF M二十四％）できたこともPFI事業の大きな長所である。今後この事業についてさらに調査、研究する必要がある。

二日目のサプライズ、総務

省大臣室で菅総務大臣（湯沢市出身）とお会いすることができたこと。そして夜には、地元の御法川代議士と懇談することができた。「やる気のある地方は応援する。何でも相談してほしい。」との力強い言葉を頂いた。お二人とも明日（一月二十五日）から国会が開会する忙しい中、本当にありがとうございました。

三日目はグループごとの視察をし、二泊三日の研修視察を無事終え、一月二十五日十八時仙北市到着、今日も快晴だった。



菅総務大臣を囲んで

請願・陳情・意見書

各常任委員会に付託された陳情について、各委員長から審査結果の報告がありました。

採択されたもの

- ・療養病床の廃止、削減と患者負担増の中止等を求める陳情
- ・市道東田線の局部改良について
- ・「市営住宅」に通じる農道の市道認定と改良について（お願い）
- ・日豪EPA交渉に関する請願書

継続審査となったもの

- ・「公共サービスの安易な民間開放は行わず、充実を求める意見書」提出に関する陳情
- ・柴倉・出口地区国土調査の間違い訂正の陳情
- ・中国における法輪功学者の臓器摘出の実態調査を求める陳情書
- ・高野会館外構工事助成について

請願・陳情・意見書

各常任委員会に付託された陳情について、各委員長から審査結果の報告がありました。

採択されたもの

- ・安心・安全な公務・公共サービス拡充を求める陳情
- ・公共サービスの安易な民間開放に反対し、国民生活の「安心・安全」の確立を求める陳情
- ・危険校舎市立神代小学校の改築について
- ・「格差社会」を是正し、いのち暮らしを守るために社会保障の拡充を求める陳情書
- ・田沢湖市民球場の改修について

不採択になったもの

- ・地域別最低賃金の引き上げと最低賃金制度の改正を求める陳情（時間額が千円以上とあり経営者には厳し過ぎるとの声があり）

意見書

- ・療養病床の廃止、削減と患者負担増の中止等を求める意見書
- ・日豪EPA交渉に関する意見書（議会として作成し関係各大臣に提出しました。）

傍聴席

初めての議会傍聴



仙北市角館町 河村勝子

角館から田沢湖にむかう車の中で、今話題になっている「子育て教育税」、「森林税」そして除雪費の余剰金を心配したり、約三十分おしゃべり満載で仙北市役所田沢湖庁舎に到着しました。

議場は三階、エレベーターはありません。私たち塾女三人は車中で元気を使いはたして、階段の前に立ち止まって、まずため息をついてから階段を登り始めました。三階の議場に入ってホッとしました。立派な議場だったからです。「環境が人をつくる」といわれます。しっかりとした市議会になるよう期待しております。

三人の議員さんの一般質問をメモをとりながら傍聴しました。市民全体が抱える問題や農林業のことか教育、生活環境等々たくさん質問が出され、当局の答弁にも耳をかたむけメモをとりました。

市政は市民の健全な生活を守るために、少ない予算でも前進しようとして努力していることに触れることができました。わずかな時間と経験でしたが、貴重な体験ができたことをよるこんでいます。

室風景

佐藤議長の頭の下げっぷりに話題が集中。

その一

仙北市代表として後期高齢者医療広域連合議員に挑戦、見事当選。

選挙区が全県であり、全議員六百に近い票をめぐり、知人、友人に働きかけを求め、なんと大仙市の議長よりも、上位当選。

日頃は見られぬ議長の低姿勢に皆キョトン…。

その二

前田沢湖町長の職員不当解雇では、全議員を前にこれは旧田沢湖町の恥部であり誠に申し訳ないと深々と頭を下げた議長。

議員の中に涙あり、胸中はいかばかりだったのか…。ほうかぶり姿のKサン。少しは議長サンを見習ってはの声高し…。

議長の一言



佐藤 峯夫

今の地方自治の一番の欠陥は議会か、機能不全で、住民も議会を軽視していることがある。

それ故、議会の果たすべき事項は、

- 一、チェック機能
 - 一、政策立案機能
 - 一、行政に説明責任を問う機能
- 一人一人の議員が議会は行政をチェックし、最終決定権を持つとの責任と自覚を深めることで、三つの機能が生きてくるのではないだろうか。

二つの特別委員会を設置

仙北市に限らず多くの自治体は、行政改革を求められている。また、角館、田沢湖、二つの病院の経営状況が今後益々厳しくなると予想されることから、議会も取り組む体制が必要として次の特別委員会を設置した。

行政改革特別委員会

- 委員長 田口勝次
- 副委員長 大石温基
- 委員 佐藤直樹、黒沢龍己、門脇健郎、浦山敏雄、青柳宗五郎、八柳良太郎、真崎寿浩、藤原万正、平岡均

市立病院経営に関する特別委員会

- 委員長 田口喜義
- 副委員長 戸澤清
- 委員 田口寿宜、小田嶋忠、安藤武、小林幸悦、藤原助一、澤田信男、浅利則夫、佐藤宗善、高久昭二

田口勝次議員が行政改革特別委員長に選任されたことにより、県立高校統合問題調査特別委員長を辞任した。同特別委員会を開催し、互選の結果、委員長に佐藤宗善議員が選任された。

編集後記

西木町のかたくり、田沢湖のミズバショウ、角館町の桜、この三大名花が一番の見頃を迎える頃に

「議会だより」

が皆様のお手元に届くと思います。

暖冬異変と叫ばれて、今年の花見も例年より相当早いのではないかと言われ続けてきました。

しかし自然の歴史の法則はうまくできているものだと感ぜざるを得ません。

結果的には例年とそんなに違いのない時期に「態勢」に入り、次に「備」えているのでしよう。

議会だより第六号は平成十九年度二月議会で議論された事の中身をまとめたものです。

市の広報と見比べて読んでみる必要があります。

「議会だより」広報委員会に対する市民の皆様「声」を心からお待ち申し上げます次第であります。

